〔別紙－３〕

白川「緑の区間」のミズベリングの取り組みについて

熊本河川国道事務所　調査第一課　◎牟田　弘幸
○梅津　真奈美

１．　はじめに

白川は熊本市街地を貫流している都市河川である。地域住民との共同参画により整備を進めてきた白川「緑の区間」の完成に併せ、民間事業者による河川敷地の利活用が可能となったことから、水辺の新しい活用の可能性を探る社会実験として「ミズベリング白川７４」を実施したので報告する。（図－１）

なお、九州の直轄管理区間では、初めての取り組みである。

図－１　位置図

２．　ミズベリング・プロジェクトの概要

ミズベリング（ＭＩＺＢＥＲＩＮＧ）とは、「水辺＋ＲＩＮＧ（輪）」、「水辺＋Ｒ（リノベーション）＋ＩＮＧ（進行形）」の造語である。かつての賑わいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を創造していくプロジェクトである。（図－２）

平成２３年度より河川敷地許可準則の一部が改正され、営業活動を行う事業者等が河川敷地を利用できるようになったことを受け、水辺とまちが一体となった美しいまちづくりをめざし、全国の河川で取り組みが始まっている。

MIZBERING
Shirakawa 74

図－２　ロゴマーク

３．　ミズベリング白川７４の開催に向けて

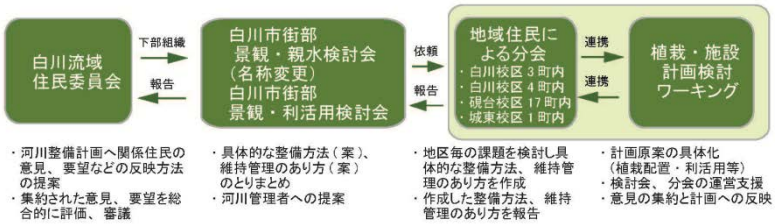
３．１　ミズベリング白川７４開催のきっかけ

①緑の区間の工事完成

白川に架かる大甲橋から明午橋における通称「緑の区間」の改修計画を昭和６１年に公表し、概ね３０年経ってようやく平成２７年４月に工事が竣工した。この間、白川流域住民委員会や白川市街部景観・利活用検討会、また各種ＷＧなど地域住民や熊本大学と合意形成を図りながら進めてきた事業である。（写真－１、図－３）

長期にわたり多くの方に関わっていただいた事業であることから、竣工式を開催し、熊本市民に完成した緑の区間を開放することとした。

写真－１　完成した緑の区間

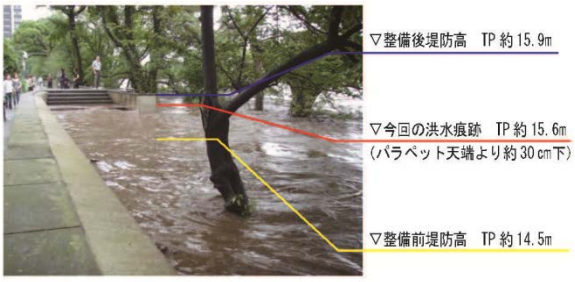


図－３　検討会の仕組み

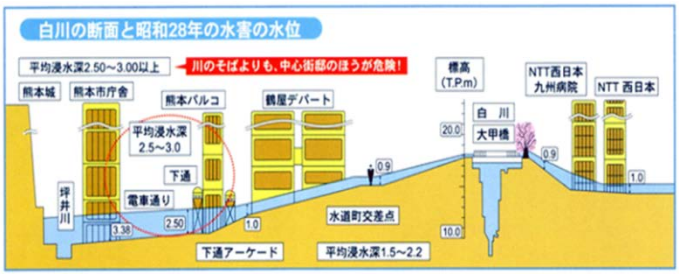
②白川への関心が希薄化する市民

これまでの協議会や地元説明会等で「白川は「危ない」、「怖い」、「汚い」のというイメージがある」「子供を遊ばせたくない」「近寄りにくい」との声を多く耳にする。白川は市街地を貫流しているものの、これまで積極的な利活用はなされておらず、熊本市民にとって白川は近くて遠い存在になっている様に思われる。いざと言うときのために日頃より白川に関心を持ってもらい、防災意識を高める必要があると感じた。

そのような中、平成２４年７月の九州北部豪雨では記録的な大雨となり、中心市街部に位置している緑の区間では、大甲橋上流において堤防の高さ付近（パラペット天端より約３０ｃｍ下）まで水位があがった。（写真－２）平成２２年に高さ２ｍの堤防を整備していたため、氾濫被害を防ぐことができたが、市街部は堤内地盤高が川から離れるほど低くなっており、まだ白川は整備途上であるため、一旦白川が氾濫すると甚大な被害となる危険性がある。（図－４）



写真－２　平成２４年７月大甲橋上流



図－４　白川横断模式図（大甲橋地点）

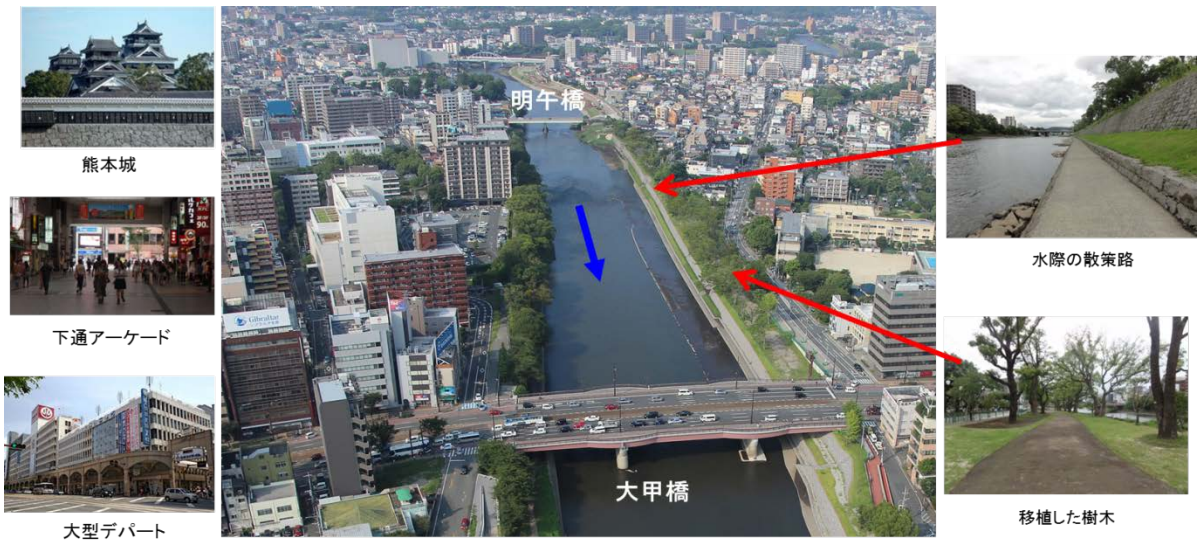
以上により、熊本市民が行きたくなるような白川になることで、白川を身近に感じ、関心度が高まることにより防災意識向上にも繋がると考え、今回緑の区間河川整備竣工に併せ、「かわ」と「まち」が一体となった「賑わいのある水辺」、「水辺のある美しいまちづくり」を目指し、水辺の新しい可能性をさぐる社会実験として開催することとした。（図－５）

図－５　チラシ

３．２　ミズベリング白川７４始動

「白川から始まる新しいミズベの未来～まちとつながるオープンリバー～」をコンセプトに、ミズベリング白川７４の企画内容を検討した。

① 緑の区間の特徴（写真－３）



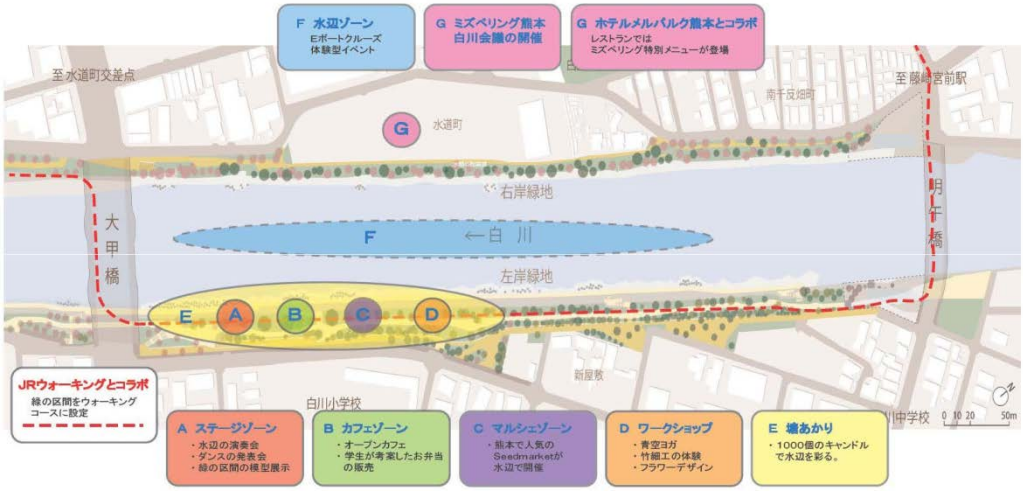
写真－３　緑の区間全景

・観光施設でもある熊本城や熊本市街地より徒歩圏内の好立地箇所。
・熊本駅から大甲橋まで白川沿いに約２．５ｋｍの遊歩道が整備済み。
・景観・親水性に配慮した整備「樹木の移植」、「石積み護岸」、「水際の散策路」

② 実行委員会の立ち上げ

地域住民や民間事業者、学識者の意見を取り入れるため、白川沿川４自治会、熊本青年会議所、熊本大学、熊本市、国からなる実行委員会を３回開催し、企画内容を決定した。（写真－４，図－６）

・商業ベースとして利用可能か検討するため、オープンカフェ、マルシェの開催
・白川沿川の学校や市民団体の吹奏楽部による水辺の演奏会
・カルチャースクールによる水辺の発表会、ワークショップ
・水辺のイベントとして、Ｅボート体験、体験型イベント
・キャンドルで水辺空間を彩る塘あかり
・ミズベリング熊本白川会議の開催



図－６　会場配置イメージ図

写真－４　実行委員会

◎実行委員会での意見
・水辺のイベントや夜に光の演出をやりたい
・熊本駅まで続く歩道をサイクリングロードとしたい。
・夜市など子供が集まる仕掛けがほしい。
・地元行事（祭り）などを復活させたい。
・ゴミ対策や安全対策も必要である。
・全国で開催されているミズベリング会議を白川でやりたい。

③民間事業者及び学校等への呼びかけ

企画決定後、職員自ら民間事業者等を訪問し、開催趣旨の説明や参加依頼を行い、賛同者を募った。

〇オープンカフェ
・喫茶店　７店
・食物科コースがある学校　２校
〇水辺の演奏会
・学校及び市民団体　２０校

◎民間事業者等の意見
・水辺での営業に興味がある。やってみたい。
・今までにない取り組みであり、熊本市の活性化につながる。
・行政ではなく、出店者で盛り上げていきたい。
・演奏ができる場所を探していた。

４．　ミズベリング白川７４開催

４．１　状況報告

○ミズベリング白川７４（写真－５，写真－６，写真－７，写真－８，写真－９）

開 催 日：平成２７年４月２５日、２６日，５月１６日、１７日

来場者数：約１万人　４日間

出店者数：カフェ９社　学校２校　　マルシェ：４２社

演奏団体：６団体（５校　１市民団体）　発表団体：２７団体

ワークショップ：８団体　　水辺のイベント：４団体

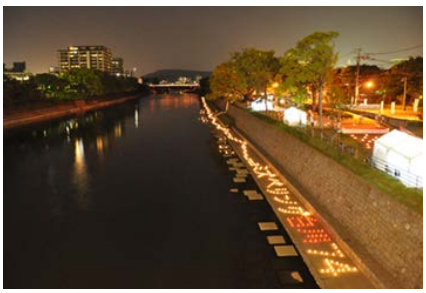
写真－５　竣工式

写真－６　オープンカフェ

写真－７　ステージ周辺

マルシェとは、雑貨や飲食店が集まって販売するイベント

写真－８　マルシェ



写真－９　塘あかり

○ミズベリング熊本白川会議

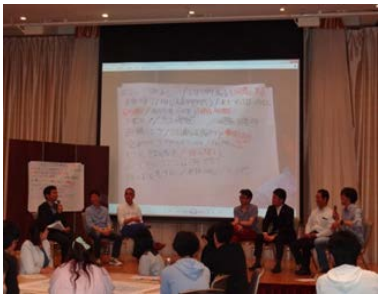
開 催 日：平成２７年５月１６日

参加者数：約１２０名

ミズベリング白川７４の一環として、熊本青年会議所主催のミズベリング熊本白川会議を開催した。一般募集した参加者は１０人１グループに分かれ、緑の区間を解説ツアーで体感した後、未来の白川の水辺について自由に話し合い、理想の白川像を一枚の絵に描き上げた。完成した各グループの絵を見ながら７人のパネリストによるパネルディスカッションを実施した。（写真－１０，写真－１１，写真－１２，写真－１３）

写真－１０　ワークショップ

写真－１１　将来の白川像



写真－１２パネルディスカッション

◎パネルディスカッション

○コーディネーター

幸山政史（前熊本市長）、星野裕司（熊本大学）

○パネリスト

植松浩二（熊本副市長）、藤井政人（国土交通省）、山名清隆（ミズベリング事務局）、浅野芳幸（熊本青年会議所理事長）、木崎宏（NPO 法人白川流域リバーネットワーク）

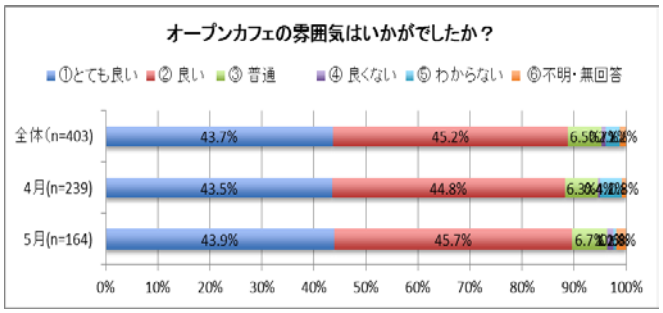
写真－１３　集合写真

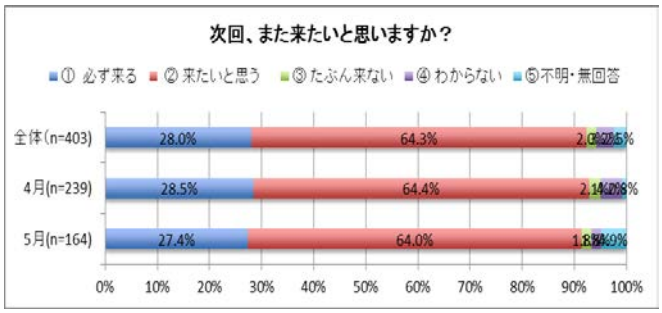
◎参加者の声
・交番の様な川のことを教えてくれる川番があるといい。
・水上レストランや水中トンネルができるといい。
・この会議で出された沢山のアイデアが活用されてほしい。
・白川のことに目を向けるきっかけとなった。

４．２アンケート結果

○来場者対象

調査対象：ミズベリング白川７４会場に来場された１０歳以上の男女
調査方法：職員によるヒアリング調査
調査結果

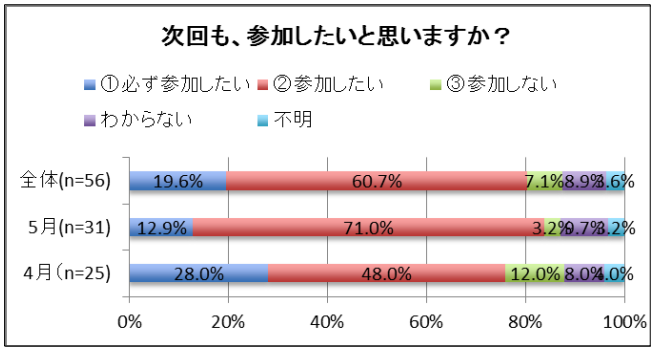


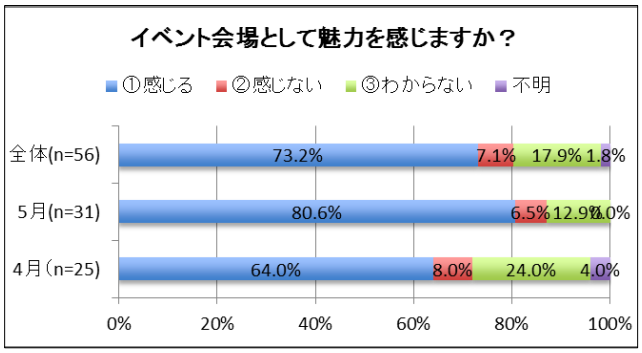


◎その他の意見
・常時オープンカフェがあるといい。週末だけでもカフェを開設してほしい。
・定期的にイベントを開催してほしい。イベントを続けてほしい。
・夜のイベントやＥボート体験を増やしてほしい。

○出店者対象

調査対象：ミズベリング白川７４の出店者
調査方法：調査票自記入による調査
調査結果





◎その他の意見
・自然があり街からも近く、立地条件がいい。
・市街地にも近く住宅街でもあるので、お客さんが来やすい。客層もよい。
・売り上げが期待できる。

４．３まとめ

４日間を通して、来場者数約１万人であったことから、白川に関心をもってもらうためのきっかけ作りとして白川に足を運んでもらうことには成功したと思われる。

来場者も出店者もこの緑の区間での継続的なオープンカフェの営業や定期的なイベント開催を望んでいる結果となり、双方のニーズを合致させる場「賑わいのあるまちづくり」として期待できる。また、中心市街地から緑の区間までは近い、ロケーションがよいとの意見が多かったことから、「かわ」と「まち」が一体となったまちづくりも期待できる。

５．　今後の展開

今回の様に、営業活動を行う事業者等による河川敷地の利用を可能とするためには、都市及び地域の再生等のために利用する施設が占用することができる河川敷地の区域を指定する必要があり、また当該指定は、地元自治体からの要望等を契機として行うことを想定しているものである。

ミズベリング白川７４を終えて、参加した民間事業者からは、今後も緑の区間で営業したいと熱い要望を受けている。今後は、民間主導のミズベリング白川７４の開催を目指し、民間が主体となり行政機関と連携した協議会が設立及び運営され、将来にわたって継続される仕組み作りを進めていきたい。